

【問い合わせ先】

市文化財課 ☎ 31-0623

萬福寺は南北朝時代の応安七
（一二七四）年十一月に創建されまし
た。このときの大檀那（出資者）が浄
阿弥陀仏こと益田兼見であつたこと
を伝える棟札や、田畠を寄進するとい
う兼見の文書が現在も残っています。
当時の武士の多くは室町幕府が手
厚く保護した禅宗、特に臨済宗を
信仰していました。兼見も臨済宗の
崇観寺（医光寺の前身）を重視し、祥兼
という禅宗の法名（出家後の名前）を
持っていました。時宗も深く信仰し
ていたことが兼見の特徴です。浄阿弥
陀仏または浄阿は、兼見の時宗の法名
です。

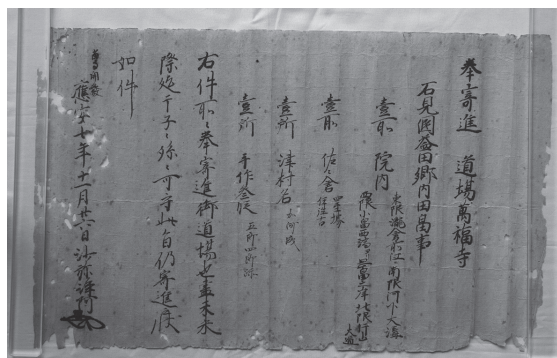
兼見は永徳三（一三八二）年に定めた置文（家訓）の中で、「道場」（萬福寺）を「本道場」にしたこと、益田家は子孫に至るまで萬福寺を大切にし、退転（衰退）させるようなことがあつてはならないとしています。道場とは時宗の寺院のことであり、「本道場」とは、時宗寺院の中でも格の高い寺院のことだと思われます。

この兼見の置文もあつてか、益田氏は代々萬福寺を保護したようで、戦国時代に尹兼ふたかねや藤兼ふじかねが寺領じりょうや末寺まつじを保護した文書が現在も残っています。

さらに天正十四（一五八六）年には、
いんきょ 隠居した父藤兼の後見を得て、益田
もとよし 元祥が萬福寺本堂の修復を行ってお
ほんどう り、そのときの棟札も残っています。

こうした益田氏の厚い保護を受け
た萬福寺は、仙道に莊嚴寺、上吉田に
光嚴寺、その他にも一之寮・宝珠庵
(または宝射庵)・西向庵といった末
寺・脇寺などがあつたことが知られ、
大寺院であつたようです。

そうした萬福寺の歴史は、鎌倉時代の様式を現在に伝える本堂（国指定重要文化財）や、雪舟（せつしゅう）が築いたと伝わる庭園（国指定史跡及び名勝）からも感じることが出来ます。



「萬福寺文書」より浄阿（益田兼見）寄進状。
萬福寺の創建にあたり、田畠を寄進しています。